

■特性評価型

学部学科専攻		書類審査	面接口試
		チャレンジしてほしい人物像 1次試験合格へのポイント	面接・口頭試問の面接形態、面接の評価ポイント
仏教学部		各種資格取得のためには、目的に向かって意欲的に勉強することが必要であると思います。入学後は、資格取得の時に発揮した力を仏教の学習・研究にそそいでくれる人の受験をのぞみます。また曹洞宗で得度した人については、生涯にわたって「教え」にしたがって生きていこうという強い意思をもって受験することを望みます。1次試験については「入学者選抜要項」に記載された条件を満たしている必要があるとともに、仏教を学ぶ強い意欲を持っていることが重要です。	仏教学部の専任教員が2人1組で面接を担当します。まず志望理由や入学後の勉強に関する目標・意欲を確認します。その後、国語、英語、社会の問題を出します。その際、出題用紙を見ながら口頭で答えていただきます。国語や英語の問題は、成句・短文などを音読し、その意味を説明するというものです。社会科の問題は、歴史上の重要な人物や出来事あるいは著作などについて質問します。高校までの教育課程で学習する内容から出題します。評価のポイントは、仏教学部を志望した動機や入学後の目標などをはっきり述べることができるかどうか、国語・英語・社会科の問題については7割以上回答できるかどうか、というところにあります。
文芸部	英米文学科	英語力を測る検定試験で優れたスコア／グレードを持っている人はもちろん、さまざまな分野において特筆すべき能力や経験・実績がある人にもぜひチャレンジしてもらいたいです。たとえば、全国・世界レベルの大会や競技会に出場し、優勝もしくはそれに準ずる成績を取めた経験などが評価の対象になります。当然、学校以外での活動も含まれます。これらを客観的に証明できる資料の提出を忘れないようにしましょう。 また、事前課題として、英語や英語圏の文化に関する書籍を読み、指定されたテーマでレポートを書いてもらいます。課題図書をただ読むのではなく、筆者の問題意識を理解し、自分の意見を明確に表現できるよう取り組みましょう。	面接では、最初に英語や英語圏文化に関する1～2パラグラフ（150語程度）の長さの英文を黙読してもらった後、音読してもらい、内容について英語と日本語で質問をします。続いて、英語圏の文化や文学で興味・関心のある事柄ないし人物、これまでに読んだ書物の内容や感想、これまでの活動・経験を入学後の学びや大学生活にどのように生かすかなどについて伺います。また、自分の活動や実績を、自分の言葉で自信を持って伝えられるように準備してください。
	歴史学科 日本史学専攻	歴史学・考古学に限らず、様々な分野において卓越した能力、ないし経験・実績を有している人です。たとえば、全国（ないし世界）的なレベルの大会・競技会に出場し、優勝もしくはそれに準じる成績を取めた、もしくは、現在その分野の専門家として活動していることなどが評価の対象になります。もちろん、学校以外での活動も含まれます。 なお、1次試験は書類審査なので、そのような能力ないし経験・実績を有することを客観的に証明できる資料の提出が必要です。注意してください。	受験生1人に対して、複数の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味・関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読んだ歴史学・考古学に関する書物の内容と感想、C) これまでの活動・経験の中で、思考力・判断力・表現力を求められた場面は何か、D) これまでの活動・経験を歴史学・考古学の研究にどのように活かすのか、逆歴史学・考古学の研究を自らの能力・技能の向上にどのように繋げてゆくの、などです。自分の活動と実績について、自分の言葉で話してください。また、それらと歴史学の研究、ないし大学生活がどのように結びつくのか、明確に説明してください。
	歴史学科 外国史学専攻	歴史学・考古学に限らず、様々な分野において卓越した能力、ないし経験・実績を有している人です。たとえば、全国（ないし世界）的なレベルの大会・競技会に出場し、優勝もしくはそれに準じる成績を取めた、もしくは、現在その分野の専門家として活動していることなどが評価の対象になります。もちろん、学校以外での活動も含まれます。 なお、1次試験は書類審査なので、そのような能力ないし経験・実績を有することを客観的に証明できる資料の提出が必要です。注意してください。	受験生1人に対して、複数の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読んだ歴史学・考古学に関する書物の内容と感想、C) これまでの活動・経験の中で、思考力・判断力・表現力を求められた場面は何か、D) これまでの活動・経験を歴史学・考古学の研究にどのように活かすのか、逆歴史学・考古学の研究を自らの能力・技能の向上にどのように繋げてゆくの、などです。自分の活動と実績について、自分の言葉で話してください。また、それらと歴史学の研究、ないし大学生活がどのように結びつくのか、明確に説明してください。
	歴史学科 考古学専攻	歴史学・考古学に限らず、様々な分野において卓越した能力、ないし経験・実績を有している人です。たとえば、全国（ないし世界）的なレベルの大会・競技会に出場し、優勝もしくはそれに準じる成績を取めた、もしくは、現在その分野の専門家として活動していることなどが評価の対象になります。もちろん、学校以外での活動も含まれます。 なお、1次試験は書類審査なので、そのような能力ないし経験・実績を有することを客観的に証明できる資料の提出が必要です。注意してください。	受験生1人に対して、複数の教員が面接に当たります。質問内容は、A) 興味関心をもっている歴史学・考古学に関する事柄ないし人物、B) これまでに読んだ歴史学・考古学に関する書物の内容と感想、C) これまでの活動・経験の中で、思考力・判断力・表現力を求められた場面は何か、D) これまでの活動・経験を歴史学・考古学の研究にどのように活かすのか、逆歴史学・考古学の研究を自らの能力・技能の向上にどのように繋げてゆくの、などです。自分の活動と実績について、自分の言葉で話してください。また、それらと歴史学の研究、ないし大学生活がどのように結びつくのか、明確に説明してください。
	社会学科 社会学専攻	あらかじめ設定してある公募基準に合致していることが何よりも重要です。社会学とは集団の成り立ちや人と人との関係性を学ぶ学問ですので、高校時代から積極的に社会に関わり実績を挙げてきた人のチャレンジを待っています。さらには、他の人とは異なるきらりと光るユニークな実績を上げていたり、人間的な魅力を実感できる活動などを行っていたりする人も歓迎いたします。1次試験（書類審査）を合格するためには、こうした点を提出書類を通して十分にアピールすることが必要になります。自己推薦書では、高校時代の経験で得たことを筋道立てて説明して下さい。また、志望理由が明確であることも必要で、何を学びたいのかが目的意識をはっきりさせましょう。さらには、将来のビジョンをもち、社会貢献への意欲があるのかも問われます。	面接では、出願資格として提出した実績について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行います。10分以内で高校時代に何に取り組み、そこから何を学んだのかをアピールしてください。自身の長所・能力を筋道立てて分かりやすく、かつ、説得力をもった説明ができるかが問われます。プレゼンテーション資料の構成や表現方法も評価のポイントです。ご自身の個性を十分に反映したスライドになるよう工夫してみましょう。 以上に加えて、現代社会への高い問題関心や大学での学ぶ強い意欲を有している学生を求めている、大学で何を学びたいのかが明確で、主体的で積極的な学びが可能なのか、また、将来のビジョンを語ることができるのかも評価項目となっています。
経済学部	経済学科	高校で普段の授業に真剣に取り組み、一定水準以上の成績を残すことはもちろんですが、それに加えて在学中に、語学、簿記、情報処理などの専門的資格の取得に注いだ努力を中心に評価します。また、1次試験では複数の資格（たとえば英語と簿記）を習得していると合格しやすくなります。事前課題では基礎知識・基礎学力だけでなく、受験生自身が地域社会・国際社会・産業界等を含めた経済・社会、および歴史について問題意識を持ち、それを他者に分かりやすく説明することができるかが評価されます。	面接は複数の教員による個別面接です。面接評価では、高校での基礎知識はもちろん、経済学科で学びたいこと、上級資格への継続的な挑戦などの入学後の学習計画、卒業後の進路希望などが質問されます。また、高校生として関心を持っている経済・社会の出来事はなにか、その関心を経済学科での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいかを答えてください。明朗な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
	商学科	特性評価型では、高校時代にまじめに勉強に打ち込み、努力を重ねた人物を期待しています。その結果高校で優秀な成績を修め、簿記・情報・英語などの資格獲得という成果を残した方が望ましいです。また1次試験では、複数の資格（たとえば簿記と情報を1つずつ）を取得していると、合格しやすくなります。事前課題では、基礎知識・基礎学力だけでなく、受験生自身が地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識を持ち、それを他者にわかりやすく説明することができるかが、評価されます。	面接は複数の教員による個別面接です。高校での基礎的な知識はもちろん、大学で勉強したいこと、卒業後の進路希望などが質問されます。高校生として関心を持っている社会の出来事は何か、その関心を大学での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを答えてください。明朗な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
	現代応用経済学科	小論文では、題材として新聞の社説などを取り上げながら、現代の経済問題・社会問題について基本的な知識を持っているか、またこの基本的知識を踏まえながらそれら諸問題に関してどのように考えているかを問います。評価のポイントは、問題となっている文章の読解力ならびに文章作成時における論理的記述力であり（答案には字数制限あり）、同時にまた漢字表記の誤り等の誤字・脱字は減点対象となります。	面接は複数の教員による個別面接です。高校での基礎的な知識はもちろん、大学で勉強したいこと、卒業後の進路希望などが質問されます。高校生として関心を持っている社会の出来事は何か、その関心を大学での学びにどのようにつなげ、将来に活かしたいのかを答えてください。明確な受け答え、礼儀正しさ、自己アピール力も評価のポイントになります。
グローバル・メディア・スタディーズ学部	グローバル・メディア学科	本学部は、学問分野の垣根を越え、多角的・複合的な手法でグローバルな問題に取り組む能力を育み、次世代を担える人材を育成することを目指しています。そのために、出願資格を満たしているだけでなく、実践的な英語力を修得すると同時に、メディア、情報(IT)、そしてコンテンツの本質を理解し、実社会において活用する意欲を持った方の応募を期待しています。さまざまな資格の取得、活動を通じ、このような能力・意欲を確認できることがポイントです。	面接形態は面接(A方式)とプレゼンテーション(B方式)があります。どちらも個人での面接またはプレゼンテーションで、複数の教員が担当します。面接では、当学部の特色を理解し、自らを磨いていこうとする意欲があるかどうか、コミュニケーションの能力があるかどうかなどを確認することを主眼とします。英語での質疑を伴う場合もあります。プレゼンテーションでは、与えられたテーマについてプレゼン資料を作成し、発表と質疑応答を行います。インターネットなどを駆使して的確に情報を収集し、それを自分なりの視点で整理し、わかりやすく伝える能力があるかどうかなどを確認することを主眼とします。